

平成28年度 西都銀上学園 自己評価書(B)

【自己評価:4段階評価】 4(十分に満足できる) 3(ほぼ満足できる) 2(やや物足りない) 1(改善を要する) 学校全体としてご記入ください。

評価項目	評価の観点	方策・指導の手立て	自己評価		反省・対策	
			指標別	総合		
基礎・基本の確実な定着と学力向上	1 「やる気」をだして学習に取り組む児童生徒の	個に応じた指導	児童生徒の状況を把握し、一人一人に応じた学習指導の工夫改善を図る。	・個に応じた指導の工夫・改善 ・「めあて」「目標」と「まとめ」のある学習指導過程 ・シロミックスタイム等の個に応じた指導の充実	3.0	3.0 ・個に応じた指導は可能な限り工夫を行ったが、学力向上に向けた学習指導の改善が必要である。 ・教科に応じた「めあて」「目標」と「まとめ」のある学習指導過程を意識して取り組むことができ、充実した授業を展開することができた。 ・シロミックスタイムを実施し、児童生徒の不十分な単元内容について復習することができた。今後も継続的に続け、学習向上に励んでいきたい。 ・「ビジョントレーニング」や「聞く練習」などの学習訓練を継続して行うことができた。 ・多くの教科で乗り入れ授業により小学校の複式授業を解消することができ、個別指導に活かすことができた。また、小中の学習内容の系統性を活かした授業を展開することができた。 ・一人一研究授業及び事後研修を実施することができ、発達段階に応じた系統的な学習指導、個に応じた指導など工夫・改善することができた。 ・チャレンジタイムを全教科設定し習熟の時間での定着を図ることができた。 ・「家庭学習の手引き」を今年度も配付し、学級担任を中心に家庭での学習時間や自宅学習ノートの内容など効果的な学習指導を学級担任を中心に行うことができた。昨年度に引き続き、「めあて」「振り返り」「先生からのアドバイス」の欄を活用し、個に応じた家庭学習を指導することができた。 ・NRTテスト分析を行い、児童生徒の実態把握を行った。また、各種テストの分析をもとに、授業やプラス1等で学力向上に向けた取り組みを行うことができた。 ・プレゼンテーションソフトやICT機器を活かした授業を各教科で実施したり、授業の導入で具体物を提示したりすることで児童生徒の興味関心を喚起する授業を行うことができた。
	授業力の向上	中学校教諭による乗り入れ授業を行い、学力向上を目指すとともに、小中相互の授業参観を積極的に実施し、授業の工夫・改善に努める。	・乗り入れ授業による個別指導の充実 ・授業研究会による研修の充実	3.0		
	家庭学習の充実	家庭との連携により、家庭学習の習慣化に努め、基礎学力の定着を図る。	・基礎学力の定着を図る家庭学習の指導 ・個に応じた家庭学習の指導	3.2		
	学力向上	NRT、CRT、実力テスト等の諸検査の分析を生かし学力向上のための手立ての充実を図る。	・諸学力検査の結果による児童生徒の実態	2.8		
	学習意欲の向上	児童生徒の向上心を高め学習に対する意欲を喚起する。	・学習意欲の喚起 ・目標をもち向上心をもって学習に取り組む態度の育成	2.9		
基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	2 「本気」で物事に向き合う児童生徒の育	基本的な生活習慣の指導	あいさつや言葉遣いの指導を中心に、基本的な生活習慣の確立に努める。	・あたりまえのこと三か条を中心とした指導	3.3	3.1 ・あたりまえのこと3か条を中心に常時指導は行ってきたが、あいさつを自分からすることに関しては個人差が見られる。整理整頓についても、自分で気づいて行うところまでは至っていない。対策としては、今後も根気強く指導を継続していく。 ・年間計画にそって実施することができ、特に体験活動についても年間を通して実施することができた。今後別葉を作成していく。 ・2学期に小中合同の人権教育に関する学活の授業を実施することができた。その後、各学級ごとにも、人権教育に関する道徳・学活の授業を実施することかぜできた。 ・伝統文化教室や銀鏡神楽鑑賞など地域の方の協力を頂き、充実した体験活動を行うことができた。 ・環境教室、農業体験学習、ゆずちぎり体験など豊かな自然を活かした活動を行うことができた。 ・憩いの家訪問や福祉体験学習(車椅子・アイマスク体験)を実施し、福祉の大切さを学ぶことができた。 ・規則正しい生活習慣や、家でのま手伝いなどは習慣化している。しかし、長期休業中に崩れる傾向がみられる。 ・対策は、長期休業中に各学級担任から自宅に電話連絡をし、定期的に様子を確認するなどしてきた。今後の対策としては、長期休業前の参観日の学級懇談及び個人面接で啓発する。サマースクールを8月の後半に設定する。 ・運動会や文化祭等の学校行事を通して他を思いやる心や協力することの大切さを学ぶことができたが、学んだことを日常生活に活かせるまでには至っていない。今後も継続して欲しい。
	道徳教育 人権教育	道徳の時間や人権学習の内容充実を図り、思いやりの心や温かい人間関係の醸成を図る。	・道徳の年間計画の見直し ・道徳の授業の工夫改善と体験活動の充実 ・人権教育の全体計画の作成	3.1		
	体験学習	地域の伝統文化や自然、福祉に関わる体験的学習を推進し、豊かな心の育成を図る。	・伝統文化を活かした体験学習の充実 ・豊かな自然を活かした校外活動の実施 ・福祉に関する体験学習の充実	3.3		
	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の定着を図る。	・児童生徒の実態の把握の徹底	2.9		
	思いやりの心	思いやりの心や温かい人間関係の醸成を図る。	・児童生徒の実態の把握の徹底	2.9		
児童の向上・健康・安全教育の推進と体力に関する実態	3 「元気に活動する児童生徒の	食育の充実	食に関する指導を充実させ、「早寝・早起き・朝ご飯」の推進や「みやざき弁当の日」を中心に取り組む。	・食育の充実	3.0	3.2 ・サマーランチ(中学校)の計画実施や、栄養教諭による食育の授業の実施により、食に関する意識は高めることができた。「みやざき弁当の日」は、3月のお別れ遠足で実施予定である。 ・年間5回の教育相談は、計画通りに実施でき、児童生徒にとっても貴重な相談時間になっている。 ・各種避難訓練や常時指導など、生徒指導部を中心に、的確に行うことができた。また、外部講師による、薬物乱用防止教室や性教育を実施し、心身の健康について考える機会を設定できた。 ・持久走や縄跳びなど体力向上への取組を行い、体力テストの結果をもとに個別指導を行った。 ・部活動の取組は良好で各自の課題を達成させるために努力している。
	健康安全教育	心身の健康維持に関する指導に努める。	・児童生徒の実態把握や教育相談の充実	3.3		
	健康安全教育	生命尊重を基盤とした健康・安全教育を推進する。	・健康教育・安全教育の推進	3.1		
	体力向上		・体力テストの結果を生かし、個に応じた指導の充実	3.3		
	部活動・行事等	体育指導の充実と運動の日常化を通して、児童生徒一人一人の体力向上に努める。	・部活動、行事等に根気強く取り組む態度の育成	3.0		
	体力に関する実態		・児童生徒の実態の把握	3.4		
家庭・小・地域・社会との連携・協力の推進	4 「地域・社会との連携・協力の推進」	小中一貫教育	学習指導面や生徒指導面における小中連携の在り方等について共通理解、共同実践しながら、小中相互の連携や協力体制の確立を図る。	・学習指導面での小中連携の充実 ・生徒指導面での小中連携の充実	3.5	3.5 ・乗り入れ授業や学校行事の連携、校内研究など本校ならではの取組を全職員の協力のもと実践できている。 ・小中9年間を見通した学習指導をさらに工夫・改善し、一人一人の実態に応じた学習指導を行う必要がある。 ・人権・生徒指導研修で小中間の情報交換を行い、共通理解共通実践をしてきた。今後も情報交換を密にし、連携を図っていく。 ・今年度は、校内研究で、小中の系統性を意識した授業の在り方について研究を行ってきたこともあり、今までいじょうに小中連携の充実を図ることができた。 ・参観日、学校便りを通して、今後も積極的に発信していく。 ・毎日更新しており、活動の様子を昨年度以上に発信することができている。 ・今の状況を維持継続させながら、積極的に地域と交流し、更なる協力態勢を築いていく。
	情報発信(説明責任)	学校の教育方針や教育的課題を積極的に説明するとともに、学校便りやホームページ等を通じた情報提供に努める。	・教育方針や課題についての積極的な説明 ・学校便りやHPによる情報提供の充実	3.4 3.6		
	関係機関との連携・協力	山村留学実行委員会、保護者(実親、里親)との連携・協力体制の確立を図る。	・関係機関との連携・協力体制の確立	3.3		